資料３

HPSC JAPAN HIGH PERFORMANCE SPORT CENTER

スポーツ庁 ミラノ・コルティナ冬季大会検証会

ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）の取組について

令和8年4月27日（月）

独立行政法人日本スポーツ振興センター
ハイパフォーマンススポーツセンター長
国立スポーツ科学センター所長　久木留　毅

JAPAN SPORT COUNCIL

【目次】

1. NFによる選手強化活動の基盤の確立・強化

2. パスウェイに基づく地域と一体となったアスリートの育成

3. アスリートへのスポーツ医・科学、情報等による支援の充実

4.ミラノ・コルティナ2026オリンピックとパラリンピックの比較

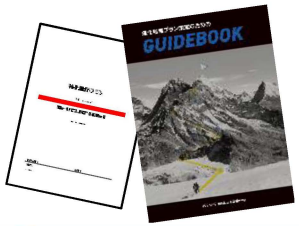
5. まとめ：総括

参考資料

1. NFによる選手強化活動の基盤の確立・強化

強化戦略プランの実効化支援に関する活動

①強化戦略プラン策定支援



〇強化戦略プラン策定のための説明会
〇フォーマットや教育素材の提供
〇策定に係る個別支援活動

④強化戦略プランワークショップ

〇強化戦略プランの策定・実行における
NFの共通課題をテーマに事例紹介や
NF間の意見交換を行う機会を設定

②進捗確認・競技横断的な情報交換等

〇NF関係者との対話を通じて、強化戦略
プランの実行状況を確認
〇競技横断的な情報交換の機会創出等

③協働コンサルテーション

〇NFにおける強化戦略プランに基づく取組
状況の確認と課題の明確化、課題解決に
向けた情報提供等

強化戦略プランの実効性向上に向けた支援

夏季・冬季、オリンピック・パラリンピックの枠組みを越えた共通課題をテーマとしたワークショップの開催、競技団体向け個別支援及び協働コンサルテーション等を通じ、強化戦略プランの実効性向上を支援。

ワークショップ 	令和3～令和5年度：全10回 ・強化戦略プランの策定、分析 ・NF間の事例共有 　指導者養成 　一貫指導・パスウェイなど	○52団体（64団体中※法人数。JPC加盟単位（男女別など）とは異なる。）が1回以上参加。 ○他競技の事例紹介等を通じて競技横断的な知見の共有を図り、参加者からポジティブな意見を得られた。
競技団体個別支援 	協働チーム事務局（JSC職員）が行う課題解決支援	○JISSが開催する各種講習会等への参加提案 ○NF間の連携の橋渡し （例）ゴルフ⇔サッカー（指導者養成制度ヒアリング） 　など
協働コンサルテーションの開催 	毎年度実施。 令和7年度は、夏季75競技種別、冬季21競技種別に対して、コンサルテーションを実施。	○協働コンサルテーションにてNFにおける課題の明確化や課題解決に向けた情報提供等を実施 （例） ・体操⇔飛込（体操HPDによる飛込の視察と情報交換） ・近代五種とフェンシング工ペチームとの合同練習。 ・冬季競技におけるジャッジ対策の課題について、JISSによる動作分析・映像分析等の実施。

本事業における成果と課題：NFによる選手強化活動の基盤の確立・強化

成果：

■ 各NFが策定した強化戦略プランの実効性の評価が高水準となっているなど、NFにおける強化戦略プランに係る知識の向上やPDCAサイクルの確立が図られた。

（特に、冬季競技についてはミラノ・コルティナ大会開催年度（令和7年度）の実効性評価（「A」から「D」の4段階）の結果が、すべての競技種目において「B」評価以上となった。）

課題：

■ スポーツ医・科学の発展により選手寿命が延びている傾向等を踏まえ、トップ選手の継続強化と次世代アスリートの早期発掘・育成の両立を図る必要があり、強化戦略プランの構成等についても不断の検討が必要。

（参考）協働コンサルテーションにおけるNFとの意見交換より

・「競技の特性上、技術習得・体力強化・戦術理解のいずれも長期的な積み上げが不可欠であり、8年～12年といった中長期スパンでの計画的な育成が必要と考えている。」

■ NFの目標達成に向けた課題の解決に向けた支援のより一層の充実。

2. パスウェイに基づく地域と一体となったアスリートの育成

J-STARプロジェクトからのオリンピック/パラリンピック出場者

大会	競技種目	結果
ミラノ・コルティナ2026大会 パラリンピック競技(9名)	ノルディックスキー(LW10.5)	女子10km(座位)18位、女子スプリント(座位)
	ノルディックスキー(NS3)	女子 10kmクラシカル(視覚障害)10位、女子 20kmフリー(視覚障害)、 女子 スプリント・クラシカル(視覚障害)11位
	アイスホッケー	7名出場　8位
パリ2024大会 オリンピック競技(1名)	自転車(女子)	女子マディソン 12位、女子チームパーシュート 10位
パリ2024大会 パラリンピック競技(8名)	陸上競技(男子)	男子走り幅跳び(T12)5位
	陸上競技(女子)	女子100m(T34)6位、女子800m(T34)6位
	陸上競技(女子)	女子100m(T34)8位
	ボッチャ(女子)	女子個人(BC3)7位、混合ペア(BC3)9位
	ボッチャ(男子)	男子個人(BC4)11位
	カヌー(女子)	棄権
	ゴールボール(男子)	男子 1位(金メダル)
	水泳(女子)	女子200m個人メドレー(SM14)3位(銅メダル)、 女子100mバタフライ(S14)5位、女子200m自由形(S14)6位、 女子100m背泳ぎ(S14)6位、混合4×100mリレー(S14)5位

WPN加入地域からのミラノ・コルティナ冬季大会出場者

No.	修了した地域・プロジェクト名	開始年度	競技	種目	備考
1	【埼玉県】プラチナキッズ・プラチナジュニア発掘育成事業	2011年	スケート ショートトラック	①女子500m、②女子3000mリレー、 ③混合団体リレー	7期生
2	【北海道】北海道タレントアスリート発掘・育成事業	2014年	カーリング	女子	1期～2期・6期～8期
3	【美深町】美深町タレント発掘・育成プロジェクト	2005年	スキー　フリースタイル	女子エアリアル	現役生
4			スキー　フリースタイル	男子エアリアル	現役生
5	【岩手県】いわてスーパーキッズ発掘・育成事業	2007年	スキー　ジャンプ	①男子ノーマルヒル、②男子ラージヒル、 ③男子スーパーチーム、④混合団体	1期生、3大会連続出場
6			スキー　ノルディック複合	①個人ノーマルヒル、②個人ラージヒル	5期生、2大会連続出場
7			スケート　スピードスケート	①女子500m、②女子1000m	7期生
8	【長野県】SWANプロジェクト	2009年	スキー フリースタイル	①女子フリースキー・スロープスタイル、 ②女子フリースキー・ビッグエア	5期生、2大会連続出場
9			リュージュ	男子1人乗り	5期生、2大会連続出場
10			スキーフリースタイル	①女子モーグル、②女子デュアルモーグル	2期生、2大会連続出場

○WPN(ワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク)とは
地域タレント発掘・育成に携わる関係団体等が連携、日本全体として国際舞台で活躍するアスリートを発掘・育成するシステムを構築することを目的としたネットワーク。
タレント発掘・育成に関するあらゆる情報の収集や共有をはじめ、会議等での指導助言、研修会の開催等の活動を実施。令和7年度終了時点　49地域52事業

本事業における成果と課題：パスウェイに基づく地域と一体となったアスリートの育成

成果：

- 「日本版FTEM」を活用した競技別パスウェイモデルの策定支援や地域における発掘・育成事業との連携等の取組を着実に推進。
- これまでにJ-STARプロジェクトを31競技・種別（オリ8競技・種別、パラ23競技・種別）で実施し、22競技・種別（オリ8競技・種別、パラ14競技・種別）においてNFの強化指定となるアスリートを発掘するとともに、オリンピック・パラリンピック出場選手も着実に増加。

課題：

- 今回のミラノ・コルティナ大会をはじめ、近年のオリンピック・パラリンピックにおける出場選手・メダル獲得選手の傾向から、将来有望なアスリートをより早く発掘し、スポーツ医・科学の知見を活用した長期的・計画的な発掘・育成がなされるよう支援を充実させる必要がある。
- 地域における発掘・育成事業とのより一層の連携が必要。

3. アスリートへのスポーツ医・科学、情報等による支援の充実

HPSC JAPAN HIGH PERFORMANCE SPORT CENTER

ハイパフォーマンス・サポート事業

アスリート支援サポートスタッフ数

	ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞ	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ	映像分析	栄養	心理	生理生化学	合計
令和4年度末	45人	17人	26人	10人	7人	1人	106人
令和5年度末	68人	13人	31人	14人	8人	3人	137人
令和6年度末	68人	18人	30人	16人	12人	8人	152人
令和7年度末	85人	19人	28人	19人	15人	10人	176人

アスリート支援活動実績（件数）※冬季競技のみ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
オリンピック競技	203件	288件	320件	436件
パラリンピック競技	53件	46件	35件	109件

ミラノ・コルティナ重点支援競技への対応

区分	令和6年6月			令和7年4月	
	ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ競技	ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ競技		ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ競技	ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ競技
S	1競技種別	1競技種別	➡	5競技種別	4競技種別
A	13競技種別	2競技種別		12競技種別	1競技種別

ハイパフォーマンス・サポート事業

映像サポート

コンディショニングサポート

栄養サポート

（イメージ）

■メンタルトレーニング計画

1．狙い

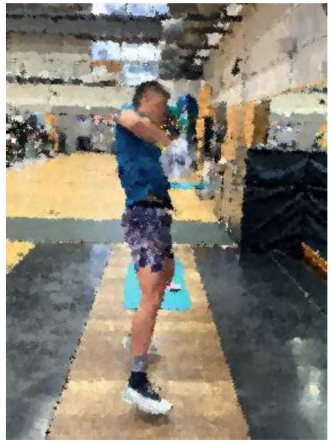
2．プログラム

①
②
③
④
⑤

3．方法

①
②
③
④
→

心理サポート



トレーニングサポート

生理・生化学サポート

ハイパフォーマンス・サポート事業　JSCサポート拠点（2026ミラノ・コルティナ大会）

■JSCサポートの延べ利用者数等

オリンピック期間	
延べ利用者数	**1,321名**
開設期間	ミラノ：2026年2月1日～2月21日（21日間） リヴィーニョ：2026年2月4日～2月20日（17日間） ヴァルディフィエンメ：2026年2月3日～2月21日（19日間）※NFホテルにトレーニング機器の設置 東京HPSC：2026年2月4日～2月22日（19日間）
利用競技団体数	3競技団体（11競技種別）

パラリンピック期間	
延べ利用者数	**179名**
開設期間	コルティナ：2026年3月2日～3月15日（14日間） ヴァルディフィエンメ：2026年3月4日～3月14日（11日間） 東京HPSC：2026年2月4日～2月22日（19日間）
利用競技団体数	2競技団体（3競技種別）

ハイパフォーマンス・サポート事業　JSCサポート拠点（2026ミラノ・コルティナ大会）

■メダリストのJSCサポート利用状況

≪オリンピック≫

	競技	利用有無
金メダル	スノーボード	○
	フィギュアスケート	○
銀メダル	ジャンプ	○
	フィギュアスケート	○
	フリースタイルスキー	○
	スノーボード	○
銅メダル	ジャンプ	○
	スノーボード	○
	スピードスケート	○
	フィギュアスケート	○
	フリースタイルスキー	○

≪パラリンピック≫

	競技	利用有無
銀メダル	アルペン	○
	スノーボード	○
銅メダル	アルペン	○

心理サポート

医療相談

選手団本部医務・ウェルフェアオフィサーとの連携

■サポート機能（抜粋）※ミラノサポート拠点

トレーニング

交代浴

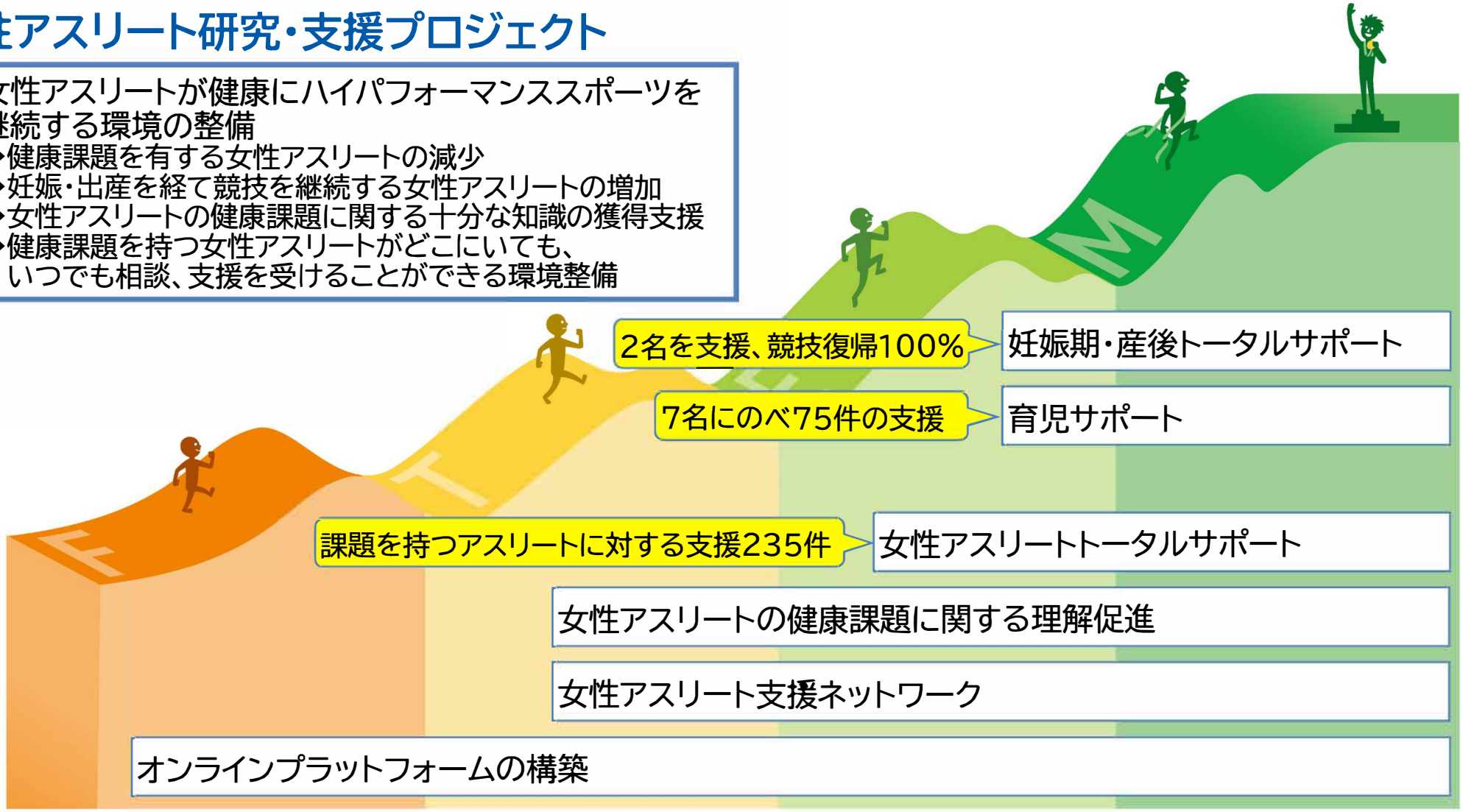
セルフコンディショニング

コンディショニングミール

打ち合わせスペース

女性アスリート研究・支援プロジェクト

女性アスリートが健康にハイパフォーマンススポーツを継続する環境の整備
→健康課題を有する女性アスリートの減少
→妊娠・出産を経て競技を継続する女性アスリートの増加
→女性アスリートの健康課題に関する十分な知識の獲得支援
→健康課題を持つ女性アスリートがどこにいても、
いつでも相談、支援を受けることができる環境整備



本事業における成果と課題：アスリートへのスポーツ医・科学、情報等による支援の充実

成果：

- 継続したスポーツ医・科学支援により強化の課題を解消することで、日本選手団の活躍を後押し。
- 大会前・大会期間中は試合会場、選手村、村外拠点が一体となって選手の最終調整を支援（トライアングルサポート）。

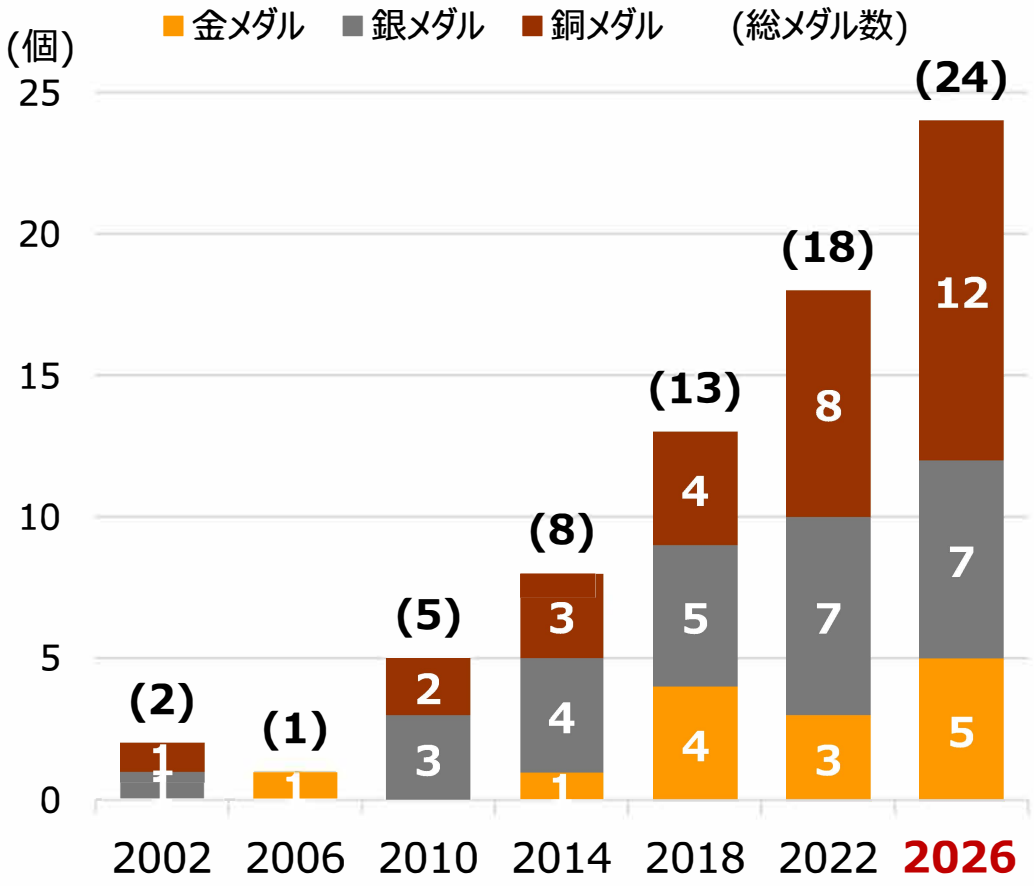
課題：

- 競技の高度化等に対して、それを支える医・科学支援の内容も、DX化やアスリートウェルビーイングに関する取組を進めるなどソフト・ハード面から高機能化を図るとともに、アスリートや競技団体の課題に応じて最適な分野融合型の支援を推進することが必要。
- トライアングルサポートをより効果的・効率的なものとするため、JOC・JPCと連携・役割分担をしつつ、HPSC/JISSが行うスポーツ医・科学支援の内容を一層充実させていくことが必要。

4.ミラノ・コルティナ2026オリンピックとパラリンピックの比較

冬季オリンピックにおける日本の成績推移

オリンピック

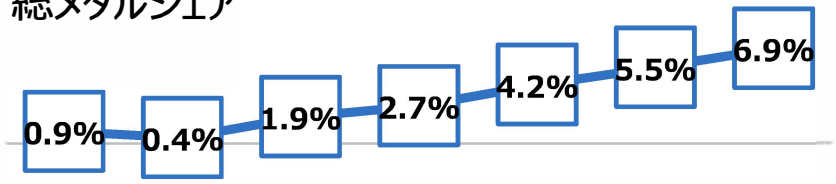


金メダルランク

総メダルランク

金メダルシェア

総メダルシェア

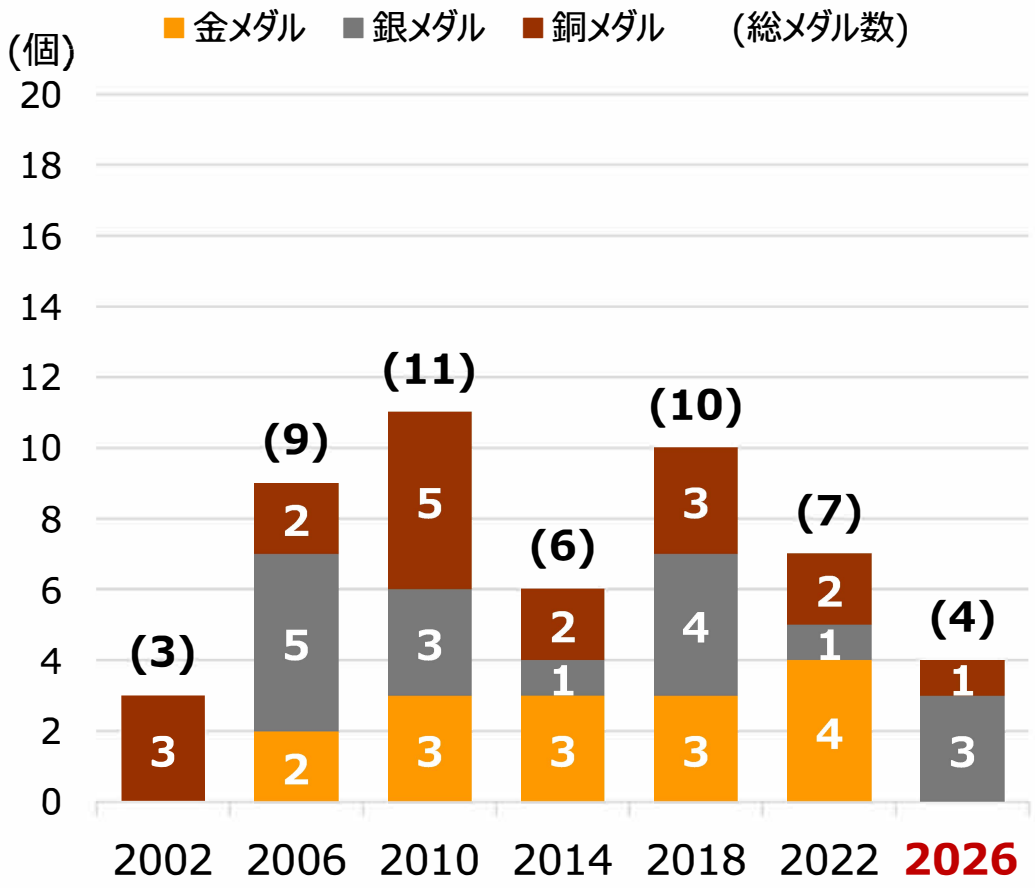


HPSC JAPAN HIGH PERFORMANCE SPORT CENTER

JAPAN SPORT COUNCIL

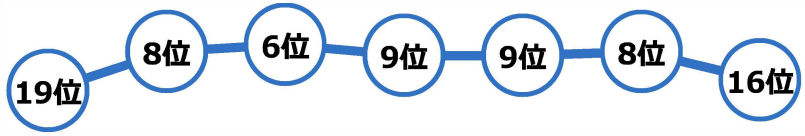
冬季パラリンピックにおける日本の成績推移

パラリンピック

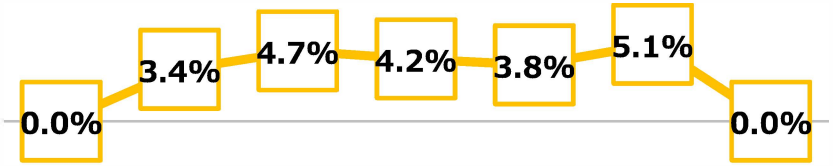


金メダルランク

総メダルランク



金メダルシェア



総メダルシェア

2002 2006 2010 2014 2018 2022 **2026**

HPSC JAPAN HIGH PERFORMANCE SPORT CENTER

JAPAN SPORT COUNCIL

5. まとめ：総括

まとめ：総括　～2028年ロス大会及びそれ以降に向けて～

○ オリンピック競技・パラリンピック競技ともに、強化戦略プランに基づいて、将来有望なアスリートをより早く発掘し、スポーツ医・科学の知見を活用した長期的・計画的な発掘・育成(※1)がなされるような支援の充実が必要。

※1 スポーツ医・科学に基づく早期のセルフコンディショニングの実践や、とりわけパラリンピック競技においては、スポーツ医・科学支援を含めた発掘・育成の仕組み化が重要

○ 競技の高速化・高度化やアスリートウェルビーイングに関する課題に日頃から対応するため、国際情報の収集・活用を図るとともに、ソフト・ハード面におけるスポーツ医・科学支援の高機能化及びアスリートや競技団体の課題に応じた最適な分野融合型の支援を推進することが必要(※2)。

※2 キーワード：トータルコンディショニング、inter/intra-disciplinary、シームレス化

○ 大会前及び大会期間中のトライアングルサポートをより効果的・効率的なものとするため、JOC・JPCと連携・役割分担を明確にしつつ、HPSC/JISSが行うスポーツ医・科学支援と研究の内容を充実させていくことが必要。

○ こうした取組を推進・加速するための共通的な基盤として、クラウド化・ DX化を推し進め、HPSCにおいて情報の収集・加工・分析・活用を推進するとともに、アスリートや競技団体が高品質なスポーツ医・科学支援にアクセスしやすい環境の整備を一層推進していくことが必要。

＜参考資料＞

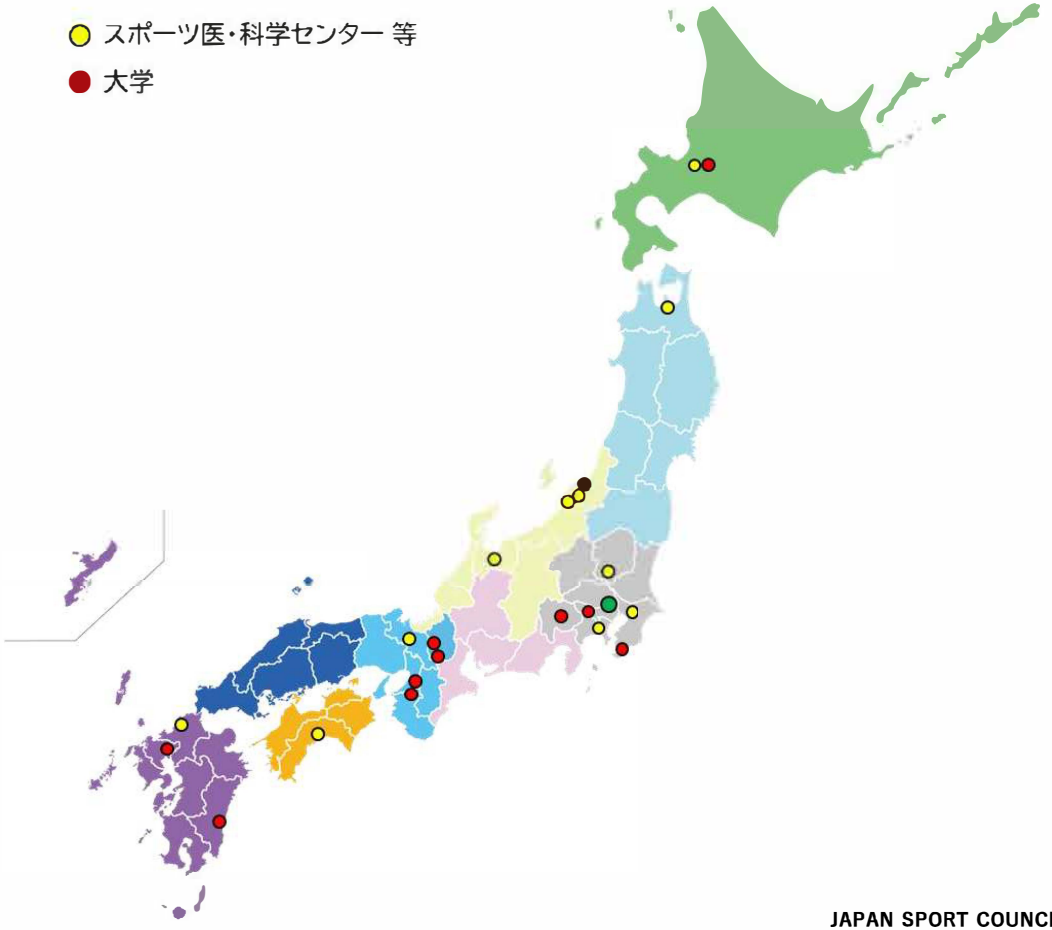
HPSCネットワークを通じた医・科学、情報サポートの展開事業

HPSC JAPAN HIGH PERFORMANCE SPORT CENTER

ハイパフォーマンススポーツセンター連携機関一覧

No.	機関名	エリア	所在地	測定項目				
				形態	身体組成	筋力	有酸素性能力	FAAB
1	北海道立総合体育センター 北海きたえーる	北海道	北海道 札幌市		○	○	○	○
2	北翔大学	北海道	北海道 江別市		○	○	○	○
3	青森県スポーツ科学センター	東北	青森県 青森市			○	○	
4	とちぎスポーツ医科学センター	関東	栃木県 宇都宮市		○	○	○	
5	千葉県総合スポーツセンター	関東	千葉県 千葉市			○	○	○
6	国際武道大学	関東	千葉県 勝浦市		○	○		
7	帝京大学スポーツ医科学センター	関東	東京都 八王子市		○		○	
8	横浜市スポーツ医科学センター	関東	神奈川県 横浜市			○	○	
9	山梨学院大学 スポーツ科学部	関東	山梨県 甲府市		○	○	○	
10	新潟医療福祉大学	北信越	新潟県 新潟市					○
11	新潟リハビリテーション病院	北信越	新潟県 新潟市					○
12	新潟県健康づくり・ スポーツ医科学センター	北信越	新潟県 新潟市		○	○	○	○
13	富山県総合体育センター	北信越	富山県 富山市			○	○	○
14	びわこ成蹊スポーツ大学	近畿	滋賀県 大津市				○	○
15	立命館大学スポーツ健康科学部	近畿	滋賀県 草津市		○	○	○	○
16	京都トレーニングセンター	近畿	京都府 京丹波町		○	○		○
17	大阪体育大学	近畿	大阪府 熊取町			○	○	
18	和歌山県立医科大学みらい医療 推進センターげんき開発研究所	近畿	和歌山県 和歌山市		○	○		○
19	高知県スポーツ科学センター	四国	高知県 高知市		○	○	○	
20	福岡県立スポーツ科学情報センター	九州	福岡県 福岡					
21	西九州大学スポーツ健康科学センター	九州	佐賀県 神埼市				○	○
22	宮崎大学医学部 スポーツメディカルセンター	九州	宮崎県 宮崎市				○	○

9エリア：北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州



HPSC JAPAN HIGH PERFORMANCE SPORT CENTER

JAPAN SPORT COUNCIL

HPSCパッケージ一覧

HPSC Network

登録者フォローアップ型

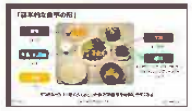
① ストレングス&コンディショニングに必要な情報の整理と活用

講習会(座学・実技)型

② トレーニングの基礎

講習会(座学)型

① アスリートのための食事の基本
② アスリートのための食事の基本ジュニア版
③ アスリートのための貧血予防
④ アスリートのための水分摂取・脱水対策
⑤ アスリートのためのウエイトコントロール
⑥ アスリートのための遠征時の食事
⑦ アスリートのための試合期の食事



登録者による支援・サポート型

① JISSフィットネスチェック

登録者フォローアップ型

① 映像サポートの基礎

登録者による支援・サポート型

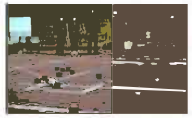
② JISS Air
③ JISS strobo

講習会(座学)型

① メンタルトレーニング(基礎編)
② メンタルトレーニング(応用編)

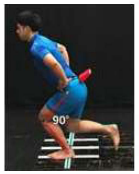
講習会(実技)型

③ チームビルディング



登録者による支援・サポート型

① 姿勢チェック(FAAB)



HPSC JAPAN HIGH PERFORMANCE SPORT CENTER

JAPAN SPORT COUNCIL

HPSCパッケージを活用した講習会／医・科学サポートの実績

■各年度のサポート実績

(1)実施件数、サポートを受けたアスリートの延べ人数【体力測定／姿勢評価／栄養／心理】

		2021年度（R3年度）	2022年度（R4年度）	2023年度（R5年度）	2024年度（R6年度）	2025年度（R7年度）	計
実施件数		4	22	55	63	124	268
内訳	(体力測定)※1	(1)	(6)	(8)	(7)	(3)	(25)
内訳	(姿勢評価)	-	-	-	-	(11)	(11)
内訳	(栄養)	(3)	(16)	(43)	(51)	(95)	(208)
内訳	(心理)	-	-	(4)	(5)	(15)	(24)
サポートを受けた人数		44	612	2,409	1,939	4,053	9,057
内訳	(アスリート)	(34)	(496)	(866)	(1,065)	(2,457)	4,918
内訳	(アスリート以外)	(10)	(116)	(1,543)	(874)	(1,596)	4,139

※1　連携機関の指定開始及びFCS制度が制定された2021年度以降の実績。

(2)ツールによるサポート状況【映像・情報技術】

	2021年度（R3年度）	2022年度（R4年度）	2023年度（R5年度）	2024年度（R6年度）	2025年度（R7年度）	計
映像・情報技術 JISS Air 撮影本数	-	-	-	-	25,031	25,031
映像・情報技術 JISS Air 撮影延べ日数	-	-	-	-	342	342

■各分野のサポート・スペシャリストの各年度の延べ人数※2

	2020年度（R2年度）	2021年度（R3年度）	2022年度（R4年度）	2023年度（R5年度）	2024年度（R6年度）	2025年度（R7年度）	合計
体力測定	0	16	4	3	7	12	42
姿勢評価	-	0	5	22	4	29	60
栄養	8	43	87	105	211	213	667
心理	-	0	48	11	17	44	120
映像・情報技術	-	0	12	0	79	158	249
S&C	-	-	-	-	-	26	26
合計	8	59	156	141	318	482	

※2　サポート・スペシャリストはパッケージ毎に登録しているため、延べ人数で算出。